



長浜 音一 議員

先導的プロジェクトをより加速 化させる道筋は

問 停滞する先導的プロジェクト（仮）南古河駅、筑西幹線道路、高等教育機関誘致、各交流拠点整備の各プロジェクトについて、「より加速化とする」が、その推進体制となる組織体制、タイムスケジュールについて伺う。

答（市長） なかなか進んでいないものについてはいろいろな問題がある。しかし、緑と産業の

交流拠点等については、企業の進出によりこれまで以上に進捗率は高まってきている。周りの環境も変わってきているため、最後までしっかりとやり遂げたい。

答（企画政策部長） まちづくりに必要な事業を推進するために、まずは新市建設計画の期間延長を進め、合併特例債を有効活用できる環境を整えていく。

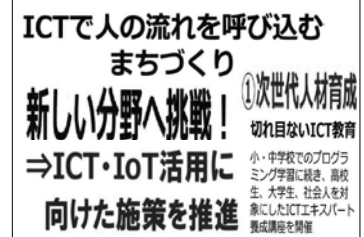
ICTの利活用、今後の導入は

問 先進自治体では、ICTの利活用を目指し、コンソーシアム[※]を設立、産官学民の連携・協働により、AIやRPA、IoT、GISを駆使した業務効率の改善や人材育成、地場産業の活性化等に一体的に取り組ん

[※]コンソーシアム…力を合わせて目的に達しようとする組織や集団。共同事業体。

でいる。古河市政としての取り組みを伺う。

答（企画政策部長） AIの導入については、令和2年度にスマートフォン等を使用したインターネットのアプリケーションで、AIが市民の皆さまの問い合わせに24時間、365日対応するシステムの導入を進めていく。RPAの導入にも業務において実証実験を進め、自動化技術の導入を検討していきたい。



先進自治体の地方総合戦略
（事例）



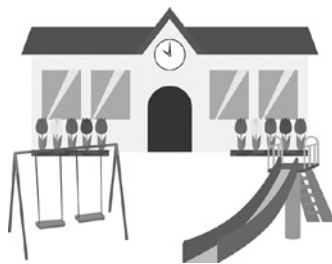
増田 悟 議員

子育て支援について

問 古河市は、3月に古河第一保育所を閉鎖し、来年には古河第五保育所を閉所予定、続いて関戸保育所も閉所する予定である。伝統ある保育所3施設が古河市から姿を消すが、これで待機児童数ゼロの公約が達成できるのか。

答（市長） 待機児童数は年々減少しているものの、ゼロには至っていない状況である。今後も民

間保育施設等への補助を行い保育士の確保に努め、官民ともに協力し合いながら、古河市全体で待機児童の解消をめざしていきたい。



タイ旅行について

問 昨年12月、秋庭議員の質問で、針谷市長はタイ旅行には私で行った。職務代理者を置かなくても、携帯電話があるため即つながると答弁されたが、本当にいつ、どこにいても連絡が

つくのか。また、携帯電話をなくしたり、電波の届かない場所にいたら職員は市長がどこにいるのか、わからないのではないのか。

答（市長） 危機管理に関するルールを古河市危機管理基本指針として定め、危機の発生に対して組織が的確に対応できるように体制を整えており、市長の不在時には副市長が決められた順序により職務を代理することになっている。

答（企画政策部長） 市長が海外渡航する場合、地方公務員の海外渡航に伴う渡航通知依頼手続事務処理要綱に基づき、海外渡航通知を県へ届ける必要があるが、県に事前確認し、届出の必要がないと回答を得ている。